



88年4月3日 No. 70

東京都腎臓病患者連絡協議会(東腎協)
事務局・〒161 東京都 [redacted]
電話・ [redacted]

昭和五十二年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKA増刊通巻「四七二号」(毎週月・水・金)
昭和六十三年三月七日発行

第16回総会議案集

| | |
|---|-----------------|
| 演 | 東腎協第16回 総会次第 |
| | 開会あいさつ |
| | 議長団選出 |
| | 会長あいさつ |
| | 〔報告事項〕 |
| | 活動報告、決算報告 |
| | 監査報告 |
| | 〔審議事項の提案〕 |
| | 活動方針案、予算案 |
| | スローガン案 |
| | 総会宣言案 |
| | 新役員選出 |
| | 閉会のあいさつ |
| | 総会終了後、記念講 |

第16回総会のご案内

東腎協規約第六条により、左記の通り第十六回総会を戸山サンライズ(全国身体障害者総合福祉センター)において開催します。会員・家族の皆さん、お誘いのうえ、ご参加下さい。

記

日時 昭和63年4月3日(日) 午前10時30分開場
次第 第16回総会(午前11時から)
記念講演(午後2時から)

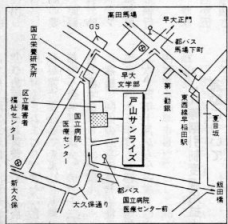
「腎不全治療の現状と将来」
講師・太田和夫(東京女子
医科大学腎センター所長)

会場 戸山サンライズ
新宿区戸山2-22-1
☎03(204)3611

※総会は午前11時から行われますので参加者には昼食を用意します。又、参加者はこの議案書を必ずご持参下さい。

〔交通〕 地下鉄東西線早稲田駅 下車8分。

〔駐車場〕 会館地下に無料駐車場(無料)の設備があります。



昭和62年度活動報告(案)

一、はじめに

東腎協は昨年十一月に結成十五周年を迎えました。この十五年度の透析医療の進歩は目覚ましいものがあります。多くの人が尊い生命を救われたばかりか、健常者に負けないくらいの活躍をしています。

しかし一方では、一向に減らない透析導入患者、その高齢化、重症化や長期透析患者の合併症など、さまざまな面で深刻な状況にあります。そして、経済低成長時代といわれる中で、社会保障は、「自助努力」、「受益者負担」が打ち出され、次々と実施に移されています。

このような状況の中で東腎協は、「腎疾患総合対策の確立」を柱とする第十五回総会で決められた活動方針に基づき次の活動をしてきました。

二、主な活動と成果

(1) 東京都に対する要請活動

東腎協は昨年七月九日、昭和六十三年度東京都予算の編成に当り、「腎臓病患者の実態を把握し、東京都における腎疾患総合対策を確立するため、患者代表を含めた対策委員会を設置すること」など十八項目の要望書を提出し、衛生局、福祉局、労働経済局、総務局、教育庁、養育院に対して要請しました。

この内、衛生局への腎疾患総合対策委員会設置の要望については、既に昭和六十一年十月、慢性腎不全に関する対策の推進を幅広く研究、検討することを目的として、「東京都腎不全研究会」が設置されています。

この「研究会」では六回の討議を経て昨年十月、「総合的な腎不全対策を効果的に推進するため」に、早急に関係機関による協議会

を設置し、具体的な腎不全対策を図っていかれることを要望する」とする報告書を衛生局長宛提出しています。

また、腎臓提供者確保体制の要望については、今年度初めて献腎キャンペーン費が予算化され、昨年十月の腎移植推進キャンペーンの費用や「腎臓病を考える都民の集い」の費用の一部として執行されています。

福祉局への要望の中では、昨年十月から心身障害者福祉手当が五百円増の一、〇〇〇円に増額されています。また、国際障害者年時の透析医療の確保や腎総合センターの計画化を要望しています。

労働経済局・総務局へは透析患者の就職に関することや災害対策についての要望。教育庁へは児童・生徒に対する腎臓病の早期発見と予後管理の徹底を要望。養育院については老人医療センター・多摩老人医療センターでの人工透析の実施・拡充を要望しています。

また、昨年七月には水道局に対し給水制限に伴う透析施設への給水確保を要望してきました。本年一月二十一日に発表された

昭和六十三年度東京都予算知事原案では、六十二年度と同様に腎臓及び角膜移植対策費として六百万円が計上されました。また、私たちが強く要望してきました「東京都腎不全対策協議会」の六十三年度設置も決まりました。

福祉局関係の心身障害者福祉手当は、六十三年度も五百円の増額(六十三年十月から一、五〇〇円)が決まりました。

(2) JR等割引制度適用拡大運動について

昨年四月から国鉄が民営化されたのを機会に全腎協は、JR、航空運賃、有料道路料金等の身体障害者割引制度の内部障害者への適用拡大の運動に本格的に取り組むことになりました。透析患者が身体障害者福祉法の適用を受けてから満十五年になりますが、いわゆる外部障害者との間には施策上の格差があり、私たちは不利益を蒙っています。

そこで、東腎協としても積極的

にこの運動に取り組むことを決め、本年一月十九日の「JR東日本への陳情に役員五人を派遣しました。また、全腎協の方針に基づい

て、都議会請願署名にも取り組みました。

署名数は各会の努力によって二、三七八人を集めました。この請願署名は自民党三人、公明党、共産党、社会党、民社クラブ各一人の議員に紹介議員になっていた。二月十八日、議政局議案課へ提出しました。

(3)腎バンク登録者拡大運動について

二回目的「腎移植推進月間」を迎えた昨年十月、東腎協では二つの街頭キャンペーンに取り組みました。

一つは全腎協がこれまで毎年行ってきた「腎バンク登録者拡大全国いっせい街頭キャンペーン」で、今年七月回目のこのキャンペーンは昨年十月四日、新宿駅西口と八王子駅北口の二か所で行い、会員・家族、医療関係者など百四十九人が参加しました。

当日新宿会場では、厚生省作成のリーフレット配布の際、カットパンや生花を一緒に配ったために比較的容易に宣伝活動を行うことができました。また、八王子会場ではリーフレット配布のほか、昨

年度と同様に看護婦による無料血圧測定を行い好評を得ました。

一方、同じ十月の十八日、東京都独自の運動として東腎協、東京都、東京都医師会の三者共催による「腎移植推進キャンペーン」を野野公園で開催しました。

当日は、東腎協から会員・家族百三十一人、東京都から衛生局長をはじめ三十三人、また東京都医師会から会長はじめ大勢の先生方が応援に駆けつけ、ミス東京の出演や美鈴太鼓、パトントワラーズの演技などもあっていっそう華やかなキャンペーンとなりました。

会場のテント内では、専門医二人による腎臓病医療相談や看護婦による無料血圧測定も行いました。こうした運動の結果、当日会場で六十二人から腎臓提供の登録を受けるなど、東京の腎臓提供者登録数は、六十三年一月現在二、〇五七人(全国では一七九、〇二四人)と昨年同月より一、二三四人(全国では三四、六六五人)増えています。

この腎移植推進キャンペーンは、これまでの私たちの運動などの成果として、東京都で初めて腎

移植推進キャンペーン費が予算化され開かれたもので、これまでの患者団体だけの運動から行政や医師会との共催で開催されたという点で大きな意義のあるキャンペーンとなりました。

(4)国会請願署名・募金運動について

昨秋から取り組んだ全腎協の第十七国会請願署名・募金運動と全国患者・家族団体協議会(日患協)の国会請願署名・募金運動は、各会・各会員の努力により全腎協署名数三一、九四三人、日患協二九、二三〇人を集めました。また、募金額は両方合せて二、二五八、五八八円と昨年を上回り、この内八二七、〇〇〇円を全腎協へ納入しました。

全腎協の「腎疾患総合対策」の早期確立を要望する請願運動は二月十六日に行われ、東腎協から十二人が参加して衆・参両院の社会労働委員など十二人の議員へ、請願の趣旨を説明して紹介議員となっていたべくよう要請しました。

(5)東腎協結成十五周年記念事業について

東腎協は昨年四月五日に開催した第十五回総会において、昭和六十二年十一月に東腎協が結成十五周年を迎えるに当り、これを記念して①記念講演会の開催②会旗の作成③会員証の作成の三つの記念事業を行うことを決めました。

記念講演会については、実行委員会を作りその具体的な内容を検討してきました。その結果、私たちが今、運動の第一の課題として「腎疾患総合対策確立」への一つの運動として、都民の方に少しでも腎臓病や透析・移植についての理解を深めてもらうため、一般の方々をも対象とした「腎臓病を考える都民の集い」として聞くことを決め、また、その意味からも東京都及び東京都医師会との三者共催として昨年十一月二十二日、東京都勤労福祉会館ホールで盛大に開かれました。

この開催に当たっては、会場費の一部やポスター、プログラム等の製作費を東京都に負担させるなど、東京都衛生局や、東京都医師会の全面的な協力を得ました。ま

た、各区市町村、保健所、教育委員会、看護学校、東腎協加盟施設等ハポスターやプログラムなどを送付して参加を呼び掛けました。

また、総合司会に松村満美子さん、シンポジストとしては伊藤克己先生(東京女子医大教授)、北岡建樹先生(昭和東大藤が丘助教)、横山健郎先生(国立佐倉病院副院長)のご協力を得ました。

当日の参加者は、東腎協から二百九人、茨城、埼玉、千葉の各県腎協から五十五人、医師会の先生方五人、東京都から八人など合計約四百人が参加し、東腎協の催しでは、最大の催しとなりました。

また、会の旗は、総会や各種の会議・交流会等の開催時に使用するために、大(一・二米×一・七米)一枚と小(〇・三米×〇・五米)五枚を作成しました。このデザインについてはいろいろ案が出ましたが、最終的には専門家に依頼しました。

会員証については、以前から幹事会などで要望があり、検討してきましたが、会員証と緊急カードを兼ねた形式で作成しました。

(6)就職活動について

東腎協では毎年七月に行う次年度の東京都予算に関する要請行動などで、透析患者が就職可能な雇用先の拡充を要望してきました。

透析患者など腎機能障害者の就職斡旋は、都内十七の職業安定所の特別援助第二部門で扱われており、昭和六十二年三月現在で百十七人の方が求職の相談をうけています。

しかし、身体障害者の就職は、昨年十月労働省から発表された昨年六月現在の身体障害者の雇用状況で、一般民間企業の法定雇用率が一・五%のところ一・二五%と前年比〇・〇一ポイント下のなど厳しい状況にあります。

このような中で昭和六十一年度の一年間に都内の職業安定所の紹介で四十七人の腎機能障害者が職に就いています。この内訳は事務十三人、技能工十二人、販売七人、専門技術六人、サービス五人、運輸・通信四人、となっています。

一方、私たちの強い要望で昭和五十六年度から行われている「東京都及び特別区における身体障害者を対象とする別枠採用」におい

て、これまでに腎機能障害者は特別区で十七人、東京都で二人が採用になっていました。

さらに、昭和六十一年度の合格者は、特別区で九人(慢性腎不全六人、慢性腎炎三人)、東京都一人(移植者)となっており、特に特別区における合格者は、過去最高を記録しています。

また、昨年六月に公布された、身体障害者雇用促進法の一部を改正する法律(昭和六十三年四月一日施行)で、中途障害者の雇用の継続及び社会復帰を図るために、障害者雇用継続助成金の支給制度が新設されたことは、再雇用の特に難しい透析患者にとっても朗報で、今後大きな力になるものと思われれます。

(7)ブロック単位患者会役員交流会について

東腎協では今年度から東京都を五つのブロックに分け、そのブロックに通院する患者会の役員(会長、事務局長、病院幹事など)によって構成される患者会役員交流会をそれぞれのブロックで一回ずつ開催しました。

この交流会は

一、ブロック内の病院間の交流、情報交換

二、各患者会の活性化などを行う目的で開かれまし

た。

①区中央部、五月三十一日、二十一人参加

②区南部、六月十四日、十四人参加

③多摩部、九月二十七日、三十五人参加

④区東部、十一月八日、十六人参加

⑤区北部、十二月十三日、十四人参加

以上の期日で交流会が開催されました。参加した患者会役員は十分な情報交換ができ、東腎協の役員とも身近に話しかけてきて意義ある交流会となりました。

今後の課題としては患者会役員交流会の意義を浸透させ、多くの患者会から参加してもらうように努め、さらに末組織病院にも呼び掛けを行うこと、各会の報告を聞くだけでなく、患者会役員交流会活動を発展させる方向で討議することなどがあります。

(8) 会員交流会について

東腎協では昭和五十八年度から会員交流会を年二回、二十三区と多摩地区と場所を移して開催しています。昨年七月十二日、東腎協初の試みとして奥多摩御岳溪谷において、野外での会員交流会を行いました。当日は朝からの雨にもかかわらず、八十八人が参加し、玉堂美術館、酒造工場などを見学しました。また体験交流会なども行い好評でした。

昨年十一月一日には飯田橋セントラルプラザで会員交流会が開催され、六十二人が参加しました。この交流会は一昨年、多摩地区で行ったようにテーマ別(①みじかな医療問題②社会復帰③長期透析④福祉・年金⑤婦人特有の問題⑥患者者活動⑦趣味・生き甲斐⑧慢性患者の問題)にグループに分かれて話し合いました。交流会は午前十一時から行われ、昼食も一緒にあって、参加した会員全員が十分な話し合いができ、好評でした。

(9) 会員拡大について

今年度は会員拡大委員会を設

け、東腎協未加入病院(五十一病院)に「入会のおすめ」を発送するなどの働きかけを行い、会員拡大を積極的に進めました。会員数は昨年度末で三千七百二十一人(患者数七十七)でしたが、この一年間で三千九百九十三人(患者数七十二)に増えました。

一方個人会員の通院する病院の状況についての調査(患者会の有無、患者数など)も行いました。五十人以上の患者が通院する組織、未加入病院が数多くあり、その組織化は大きな課題となっています。

(10) 機関誌「東腎協」を定期発行

東腎協は今年度も機関誌「東腎協」を定期発行し、会員の体験や意見を掲載し、その役割を果たしました。

六十六号では東腎協第十五回総会の模様、十五周年記念事業の決定のことなどを中心に伝えました。

六十七号では東腎協第十五回総会の記念講演、帝京大学教授・小出桂三先生による「長期透析における合併症」を特集しました。

六十八号は、東腎協結成十五周年を記念して、記念号として増ページ(三十二ページ)で発行しました。この記念号では十年以上の透析者を調査し、全氏名を掲載し、十年以上の透析者、十人の方々を編集委員が訪問し紹介しました。六十九号では「なかまたより」で大勢の会員の近況を紹介しました。

(11) 全腎協の活動に積極的に参加

全腎協第十七回総会は昨年五月二十四日、新潟市の新潟県民会館で開かれ、全国四十五都道府県から会員・家族、医療関係者など七百七十一人が参加しました。

東腎協ではこの総会に参加するため、泊二日のパスツアーを計画し各患者会へ参加を呼び掛け、三十四人が参加しました。

第二十一回関東ブロック会議は昨年六月四日から五日にかけて、栃木県・鬼怒川温泉で開かれ、東腎協から役員二人が参加しました。また、十二月五日から六日にかけて五反田で開かれた第二十二回の会議には、役員六人が参加しました。これらの会議では腎移植

推進月間への取組み、国会請願の在り方、J.R等の料金割引制度の内部障害者への適用運動等について話し合われました。

今年度も東腎協は全腎協運営に積極的に協力し、石川会長が副会長として、一ノ清副会長が幹事として、泉山常任幹事が会長として、小林常任幹事が事務局長としてそれぞれ立場で活躍してきました。

(12) 他団体との連携

日本における患者運動のナショナルセンターを目指して結成された日本患者・家族団体協議会(J.P.C.)の第二回総会が昨年六月七日に五反田で開かれ、東腎協から四人が参加しました。また、十二月二十四日に行われた六十三年度予算復活要請行動にも三人が参加しました。

東京難病団体連絡協議会(東難連)は、今年度も平沢副会長が会長を務め、東京都からの難病検診や都庁各局、都議会各会派への要請・陳情をしてきました。

本年一月二十一日発表された知事原案では難病の医療費公費負担の対象拡大として二疾病(二疾病

は国がらみ)が予算化されました。東難連主催の腎臓病無料医療相談会は昨年八月二日、三田の障害者福祉会館で開かれ、十八人の方が受診されました。当日の相談医としては、昭和大学藤が丘病院助教・出浦照国先生、同助教、北岡建樹先生、同講師・佐藤昌志先生、聖マリイナ医大助教板橋靖先生のご協力を得ました。国際障害者年東京都連絡会は、今年度も引き続き平沢副会長が委員として出席し、内部障害者の立場から提言してきました。また、東腎協は昨年九月、「国際障害者年東京都行動計画後期計画」の作成に当り、腎総合センターの設置など十項目の要望書を提出し、その実現を要望しました。

三、おわりに

東腎協は昨年度までに、会費値上げによる財政に裏付けられた事務所独立や事務局体制強化など、当面の目標をクリアーして、結成十五周年に当たる本年度、活発な運動を展開することができました。

そして、運動の質そのものも、十五周年を記念して企画した「腎

臓病を考える都民の集い」や腎移植推進キャンペーンのように、行政や医療サイドをも含むより広い運動として行われ、単に患者団体の運動に留まらず、社会的な活動として認められるようになったことは評価されるでしょう。

しかし一方では、私たちにあって切実な「腎疾患総合対策」確立への運動やJ・R等の料金割引制度適用拡大運動など、今後も引き続き強力な運動を行う必要のある問題も多くあります。こうした運動を活発に行うには、各患者会や会員皆さんの積極的な参加と協力が必要です。明日の十年、十五年を目標して共に頑張りましょう。

文書発言もできます

東腎協規約第六条で、総会にたいして文書による発言も認められています。

なお、総会議案にたいする意見のある方は、別紙の発言用紙に書いて、三月末日(必着のこと)までに東腎協へお送り下さい。

△送り先▽

〒161 東京都

東腎協事務局

昭和62年度主な活動記録

昭和62年

3月

- 13 昭和62年度総勘定元帳作成(中田)
- 10 都職労自治研究会出席(平沢、糸賀)『全腎協』No90発送
- 6 2月分収支報告作成、会計事務引継ぎ(竹田、中田)『全腎協』No90発送準備(石川みさ)
- 5 『東腎協』No65議案書発送
- 4 総会開催案内状を各患者会宛発送
都職労自治研究会出席(平沢)
- 3 総会開催案内状を各都道府県組織宛発送
府県組織宛発送
- 2 『東腎協』No65議案書発送準備(石川みさ)
- 1 総会開催案内状を各都道府県組織宛発送
- 19 都・各局、都議会各派へ第15回総会案内状を持参(森)
- 15 昭和61年度会計監査(時田、前田、石川勇吉、草間、竹田)
- 11 鹿兒島県腎協第12回総会メッセージ発送
- 9 ツセージ発送
- 26 全腎協運営委員会出席
- 25 長崎県腎協第12回・福井県腎友会第15回各総会へメッセージ発送
- 17 『東腎協』No66発送(石川みさ)
- 16 展望委員会開催(出席者：8人)
- 15 『東腎協』No66発送準備(石川みさ)
- 14 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 13 編集会議開催(加藤、草間、井上、鈴木)
- 12 大分県腎協第9回、静岡県腎友会第8回各総会へメッセージ発送
- 11 茨城県腎協第16回、福岡県腎協第15回各総会へメッセージ発送
- 10 東腎協結成15周年記念講演会実行委員会開催(高橋、柳、森)
- 9 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 8 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』配布(森)
- 7 東腎協結成15周年記念講演会(出席者：7人)
- 6 『全腎協』No92発行準備(石川みさ)
- 5 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 4 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 2 東難連運営委員会出席(出席者：21人)
- 1 区中央部患者会役員交流会開催(出席者：21人)
- 28 東難連運営委員会出席(平沢)
- 27 『東腎協』No66入稿(加藤)
- 26 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 25 長野県腎協第15回総会へメッセージ発送
- 24 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 23 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 22 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 21 東難連運営委員会出席(平沢)
- 20 都庁訪問、新任担当者への挨拶、『全腎協実態調査報告』配布(森)
- 19 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 18 展望委員会開催(出席者：8人)
- 17 『東腎協』No66発送(石川みさ)
- 16 展望委員会開催(出席者：8人)
- 15 『東腎協』No66発送準備(石川みさ)
- 14 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 13 編集会議開催(加藤、草間、井上、鈴木)
- 12 大分県腎協第9回、静岡県腎友会第8回各総会へメッセージ発送
- 11 茨城県腎協第16回、福岡県腎協第15回各総会へメッセージ発送
- 10 東腎協結成15周年記念講演会実行委員会開催(高橋、柳、森)
- 9 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 8 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 7 東腎協結成15周年記念講演会(出席者：7人)
- 6 『全腎協』No92発行準備(石川みさ)
- 5 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 4 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 2 東難連運営委員会出席(出席者：21人)
- 1 区中央部患者会役員交流会開催(出席者：21人)
- 25 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 24 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 23 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 22 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 21 東難連運営委員会出席(平沢)
- 20 都庁訪問、新任担当者への挨拶、『全腎協実態調査報告』配布(森)
- 19 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 18 展望委員会開催(出席者：8人)
- 17 『東腎協』No66発送(石川みさ)
- 16 展望委員会開催(出席者：8人)
- 15 『東腎協』No66発送準備(石川みさ)
- 14 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 13 編集会議開催(加藤、草間、井上、鈴木)
- 12 大分県腎協第9回、静岡県腎友会第8回各総会へメッセージ発送
- 11 茨城県腎協第16回、福岡県腎協第15回各総会へメッセージ発送
- 10 東腎協結成15周年記念講演会実行委員会開催(高橋、柳、森)
- 9 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 8 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 7 東腎協結成15周年記念講演会(出席者：7人)
- 6 『全腎協』No92発行準備(石川みさ)
- 5 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 4 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 2 東難連運営委員会出席(出席者：21人)
- 1 区中央部患者会役員交流会開催(出席者：21人)
- 25 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 24 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 23 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 22 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 21 東難連運営委員会出席(平沢)
- 20 都庁訪問、新任担当者への挨拶、『全腎協実態調査報告』配布(森)
- 19 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 18 展望委員会開催(出席者：8人)
- 17 『東腎協』No66発送(石川みさ)
- 16 展望委員会開催(出席者：8人)
- 15 『東腎協』No66発送準備(石川みさ)
- 14 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 13 編集会議開催(加藤、草間、井上、鈴木)
- 12 大分県腎協第9回、静岡県腎友会第8回各総会へメッセージ発送
- 11 茨城県腎協第16回、福岡県腎協第15回各総会へメッセージ発送
- 10 東腎協結成15周年記念講演会実行委員会開催(高橋、柳、森)
- 9 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 8 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 7 東腎協結成15周年記念講演会(出席者：7人)
- 6 『全腎協』No92発行準備(石川みさ)
- 5 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 4 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 2 東難連運営委員会出席(出席者：21人)
- 1 区中央部患者会役員交流会開催(出席者：21人)
- 25 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 24 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 23 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 22 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 21 東難連運営委員会出席(平沢)
- 20 都庁訪問、新任担当者への挨拶、『全腎協実態調査報告』配布(森)
- 19 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 18 展望委員会開催(出席者：8人)
- 17 『東腎協』No66発送(石川みさ)
- 16 展望委員会開催(出席者：8人)
- 15 『東腎協』No66発送準備(石川みさ)
- 14 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 13 編集会議開催(加藤、草間、井上、鈴木)
- 12 大分県腎協第9回、静岡県腎友会第8回各総会へメッセージ発送
- 11 茨城県腎協第16回、福岡県腎協第15回各総会へメッセージ発送
- 10 東腎協結成15周年記念講演会実行委員会開催(高橋、柳、森)
- 9 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 8 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 7 東腎協結成15周年記念講演会(出席者：7人)
- 6 『全腎協』No92発行準備(石川みさ)
- 5 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 4 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 2 東難連運営委員会出席(出席者：21人)
- 1 区中央部患者会役員交流会開催(出席者：21人)
- 25 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 24 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 23 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 22 石川県腎友会第16回、鳥取県腎友会第14回各総会へメッセージ発送
- 21 東難連運営委員会出席(平沢)
- 20 都庁訪問、新任担当者への挨拶、『全腎協実態調査報告』配布(森)
- 19 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 18 展望委員会開催(出席者：8人)
- 17 『東腎協』No66発送(石川みさ)
- 16 展望委員会開催(出席者：8人)
- 15 『東腎協』No66発送準備(石川みさ)
- 14 第94回常任幹事会開催(出席者：23人)
- 13 編集会議開催(加藤、草間、井上、鈴木)
- 12 大分県腎協第9回、静岡県腎友会第8回各総会へメッセージ発送
- 11 茨城県腎協第16回、福岡県腎協第15回各総会へメッセージ発送
- 10 東腎協結成15周年記念講演会実行委員会開催(高橋、柳、森)
- 9 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 8 『全腎協』No91、福祉制度の挨拶、『全腎協実態調査報告』常任幹事会報告発送
- 7 東腎協結成15周年記念講演会(出席者：7人)
- 6 『全腎協』No92発行準備(石川みさ)
- 5 岩手県腎友会第9回、岐阜県腎協第17回、兵庫県腎友会第17回、富山県第17回、福島県腎協第18回各総会へメッセージ発送
- 4 都立駒込病院腎不全センター見学会(高橋、柳、糸賀、森、草間)
- 3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 2 東難連運営委員会出席(出席者：21人)
- 1 区中央部患者会役員交流会開催(出席者：21人)

4月

5月

6月

7月

8月

- 4 会員交流会案内状を各患者会宛発送
東京肝臓病の会総会へメッセージ発送
昭和63年度東京都予算に関する要望書作成
三役会議開催(出席者:7人)
腎移植推進実行委員会(高橋、柳、森)
- 15 開催(出席者:15人)
『東腎協』No67編集(加藤、草間)
- 18 記念講演会展示用パネルの製作をテルモ(株)に依頼
東大大学院朝倉・小沢氏来局、透析患者の雇用と患者会活動について質問を受ける
- 21 第96回常任幹事会開催(出席者:17人)
10年・15年透析者調査委員会開催(草間、竹田、石川みき、井上、小泉)
編集会議(加藤、草間、井上、木村、鈴木)
- 23 埼玉県腎友会第16回、山口県腎友会第12回各総会へメッセージ発送
会員拡大未加盟の53施設へ「入会のすすめ」を発送
- 27 東難連運営委員会出席(平沢)
- 7月
- 1 都・水道局へ「給水制限に伴う血液透析施設に対する給水確保について」
- 4 要望書を提出(森)
- 3 『全腎協』No93発送準備(石川みき)
- 4 都職労予算要求に関する懇談会出席(森)
10年・15年透析者調査集計(草間、井上)
- 4・5 関東ブロック会議
多摩部患者会役員交流会会場下見(竹田)
- 7 東難連63年度予算要請(糸賀、平沢、草間)
- 5 6月分会計報告作成(中田)
- 7 幹事会会場申し込み(草間)
- 8 『全腎協』No93発送
63年度予算要請(出席者:12人)
- 8 『東腎協』No67発送準備(石川みき)
- 10 三役会議開催(出席者:7人)
- 11 会員交流会開催(参加者:88人)
- 12 都庁訪問、腎移植推進キャンペーン打合せ(森)
- 15 記念講演会実行委員会開催(中田)
- 18 腎移植推進実行委員会(高橋、柳、森)
19 全国会長会議出席(一ノ清)
編集会議開催(加藤、草間、竹田、井上、木村、鈴木)
会員拡大実行委員会、草間、竹田、井上、木村、菅川)
- 19 中川先生へ記念講演会への協力を要請
記念講演会実行委員会(高橋、柳、森)
多摩部患者会役員交流会準備(竹田)
62年度上期会計報告作成(中田)
- 20 都庁訪問、キャンペーン・講演会、東京都医療計画の件(森)
- 23 会員交流会実行委員会(出席者:7人)
第97回常任幹事会開催(出席者:16人)
都立新大塚病院見学会参加(平沢、草間)
- 25 調布病院「透析を考える」出席(一ノ清、竹田、林田)
- 9月
- 1 国際障害者年東京都連絡会出席(平沢)
- 3 松村さんへ「腎臓病を考える都民の集い」の総合司会依頼状発送
- 4 国会請願署名用紙発送準備(石川みき)
- 5 東難連運営委員会出席
- 9 63年度予算要望書を養育院へ提出(草間)
5月分会計報告作成(中田)
群馬県腎協第15回総会へメッセージ発送
- 10 63年度予算要望書を衛生局、教育庁、福祉局、労働経済局、総務局へ提出(森)
- 12 区南部患者会役員交流会会場下見(石川みき)
- 14 区南部患者会役員交流会

昭和63年度活動方針案

これまでの私たちの運動に対する最近の成果として、国においては昭和六十年度からの「小児慢性腎疾患の予防・管理に関する研究班」の発足、六十一年度からの「腎不全対策推進会議」の設置、同じく「腎移植推進月間」の設定などがあげられます。また、東京都腎不全研究会」の設置、六十二年からの腎移植推進キャンペーン費予算化など、腎疾患の予防や移植のための対策が本格的に検討されはじめており、腎疾患対策は新たな段階を迎えています。

しかしながら、透析患者は引き続き増え続け、透析医療供給体制、長期透析患者の合併症、高齢化などさまざまな面で深刻な状況にあります。その医療費もますます増大しています。また、若年層を中心に要求の強い腎移植も、死体腎移植体制の立ち遅れにより、いっそうに進まないのが現状です。

このようなかで、私たちが主張

している、腎臓病の研究や予防から早期発見早期治療、人工透析治療や腎移植対策から社会復帰に至る「腎疾患総合対策」の確立は、急務となっています。東腎協は今年度も「腎疾患総合対策」の確立を目指して、次のような運動を進めます。

一、活動目標

- 1、腎臓病の研究、予防、治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策を確立するため運動を進めます。
- 2、腎提供者確保のための運動を進めます。
- 3、医療、福祉制度の全国的な問題に対しては、積極的に全腎協と共に運動を進めます。
- 4、国立王子病院の透析医療を存続させるため、統廃合に反対の運動を進めます。
- 5、東難連と連携・協力して医療と福祉のための運動を進めます。

- 6、会員交流会を開催します。
- 7、幹事、常任幹事を対象とした学習会を開きます。
- 8、機関誌「東腎協」を定期発行します。さらに、速やかな情報伝達のために「東腎協ニュース」を随時発行します。
- 9、腎臓病の知識普及に努めます。
- 10、十五周年記念「腎臓病を考へる都民の集い」報告集を出版します。
- 11、会員拡大をはかり、次の総会までに四、二〇〇人を目標とします。
- 12、ブロック別の患者会役員交流会を開催します。
- 13、関東ブロック活動家研修・交流会を東腎協主導で開きます。
- 14、要望事項実現のため、都庁要請、都議会要請を行います。
- 15、事務局体制を強化します。
- 16、中、長期目標については、展望委員会などで継続的に論議を深めます。

二、東京都及び都議会各党に対する陳情、要請活動

(1) 医療体制の整備に関する要望

- 1、東京都における腎疾患総合対策を確立するため、「東京都腎不全研究会」報告書にある「協議会」を患者代表を含め早期に設置すること。
- 2、腎移植普及のため、広報活動の強化など腎臓提供者確保体制を確立すること。
- 3、すべての都立病院に腎外来を設置し、外来透析及び夜間透析を実施、拡充すること。
- 4、老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置すること。
- 5、都立大久保病院の改築に当たっては、腎臓病の早期治療から腎移植手術可能な総合腎センターを設置すること。
- 6、亀有及び多摩地区に設立予定の地域病院で、外来透析及び夜間透析を実施すること。
- 7、大島、八丈島などの島しよ

も透析治療が受けられるようにすること。

8、乳幼児、児童、生徒、学生、

勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し、管理体制を確立すること。

9、小中学生については、「腎臓手帳」の発行による管理体制を推進すること。

10、災害時の緊急透析治療体制及び病院までの交通を確保すること。

(2)医療費、生活保障に関する要望

1、慢性腎炎患者の医療費を公費負担すること。

2、内部障害者は、四級まで医療費を公費負担すること。

3、心身障害者福祉手当を増額し、所得制限を引き上げること。

4、透析患者を父とする家庭への児童扶養手当の認定を促進すること。

5、内部障害者もJ R、航空運賃、有料道路料金の割引制度の対象とするよう国等へ働きかけること。

6、東京都の職員に人工透析をしている障害者を採用すること。

と。

7、腎機能障害者の雇用を促進すること。

8、区市町村で福祉対策を拡充すること。

昭和63年度スローガン案

一、腎臓病の研究、予防、治療から社会復帰にいたる腎総合対策の確立を！

二、腎総合センターの設立を！

三、慢性腎炎患者の医療費公費負担を！

四、国立王子病院の存続を！

五、国公立病院及び都立病院で夜間透析の実施を！

六、腎バンク登録の拡大を！

七、働ける腎臓病患者に社会復帰の道を！

八、J R、航空運賃、有料道路料金の割引を内部障害者にも適用を！

九、区市町村での福祉対策の充実を！

十、活動内容を充実し、四千二百人の東腎協を！

総会宣言(案)

私たち東腎協は昨年11月、結成15周年を迎えました。

この15年間、腎不全の治療法は素晴らしい進歩を遂げ大きな成果を上げています。とりわけ人工透析療法は、腎不全治療の中心として私たち腎不全患者の社会復帰を支えています。また、治療費の面からも公費負担制度が確立しており、経済的な心配なく治療を受けられるようになりました。こうした医学的・社会的対策の充実により透析患者は、いま、全国で約8万人、都内でも約9千人に達するものと思われます。

このような人工透析療法の普及の一方では、さまざまな問題点も表れています。相変わらず増え続ける透析患者。その結果としての透析医療費の増大や医療供給体制への不安。年々すすむ透析患者の高齢化や重症化。そして、透析による合併症も長期透析患者が増えるに従って深刻な状況になりつつあります。また、就労適応者の就職難は家庭生活を破壊します。

いま、私たちは医療の保障を一応勝ち得たものの、こうした面で厳しい状況に置かれています。増え続ける透析患者と増大する医療費。私たちはこの状況を解決するために、腎臓病の研究・予防・治療から社会復帰に至る「腎疾患総合対策」の確立を求めて運動を進めてきました。こうした運動により、東京都においても総合的な腎不全対策を効果的に推進するために、ようやく腎不全対策協議会が設置されようとしています。「腎疾患総合対策」確立の運動は、いまようやく新しい段階にさしかかっています。私たちは腎疾患対策の飛躍的な発展のために、この「協議会」の成果に大きな期待を寄せています。

私たちは、腎臓病患者をこれ以上増やさないためにも腎臓病の研究・予防・腎移植を含めた腎不全治療体制から社会復帰に至る「腎疾患総合対策」の確立を目指す運動をさらに強めていきます。

昭和63年4月3日

東京都腎臓病患者連絡協議会
第16回総会

全腎協・日尿協国会誌別署名・募金集計表

1968.2.1現在

| № | 患者会名 | 全腎協署名 | 日尿協署名 | 募金額 | № | 患者会名 | 全腎協署名 | 日尿協署名 | 募金額 |
|----|---------------|-------|-------|---------|----|--------------|---------|--------|-----------|
| 1 | あじほの腎友会 | 919 | 653 | 32,520 | 39 | すずらん腎友会 | 604 | 282 | 54,811 |
| 2 | 青山会 | 60 | 60 | 7,000 | 40 | 高松病院成健腎友会 | 60 | 106 | 12,900 |
| 3 | 鹿田橋クリニック腎友会 | 331 | 325 | 20,000 | 41 | 竹口病院腎友会 | 261 | 260 | 27,000 |
| 4 | 和泉クリニック腎友会 | 120 | 110 | 10,000 | 42 | 立川共済病院腎友会 | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 柳井内科腎友会 | 10 | 10 | 20,000 | 43 | 立川第一相互病院腎友会 | 561 | 551 | 36,306 |
| 6 | 今尾医師腎友会 | 389 | 380 | 8,700 | 44 | 調布病院腎友会 | 1,142 | 1,189 | 66,600 |
| 7 | 入谷クリニック腎友会 | 216 | 216 | 22,000 | 45 | 豊布東山病院腎友会 | 24 | 24 | 0 |
| 8 | 大野しのぶ学会 | 1,531 | 1,450 | 62,000 | 46 | チャレンジャー | 19 | 19 | 5,000 |
| 9 | 大田病院腎友会 | 309 | 309 | 15,000 | 47 | 月島サマリア腎友会 | 364 | 327 | 39,000 |
| 10 | 大橋クリニック腎友会 | 217 | 214 | 6,000 | 48 | 東京大学病院腎友会 | 187 | 140 | 32,600 |
| 11 | 大山中野腎友会 | 534 | 534 | 32,410 | 49 | 東京共済病院腎友会 | 99 | 100 | 12,000 |
| 12 | 小笠原クリニック腎友会 | 301 | 303 | 44,520 | 50 | 中島病院腎友会 | 60 | 59 | 10,000 |
| 13 | 鶴本病院腎友会 | 592 | 596 | 53,130 | 51 | 中野クリニック腎友会 | 98 | 98 | 13,200 |
| 14 | 鶴本病院ニール友の会 | 3,452 | 2,284 | 152,091 | 52 | 長夏三和クリニック腎友会 | 131 | 126 | 3,000 |
| 15 | 北病院腎友会 | 290 | 264 | 1,500 | 53 | 西新井病院腎友会の会 | 630 | 510 | 50,000 |
| 16 | 北多摩病院腎友会 | 627 | 591 | 35,300 | 54 | 西池袋黎明会 | 224 | 224 | 24,000 |
| 17 | 吉祥寺クリニック腎友会 | 879 | 875 | 59,000 | 55 | 西クリニック腎友会 | 314 | 319 | 29,950 |
| 18 | 杏林腎友会 | 610 | 590 | 35,000 | 56 | 日神三井クリニック腎友会 | 0 | 0 | 0 |
| 19 | 京妻病院腎友会 | 171 | 164 | 6,820 | 57 | 揮島三井クリニック腎友会 | 397 | 389 | 24,000 |
| 20 | 国分寺王子クリニック観光会 | 293 | 291 | 17,880 | 58 | 東池袋クリニック腎友会 | 338 | 254 | 11,520 |
| 21 | 国立王子病院腎友会 | 129 | 144 | 25,000 | 59 | 東増田クリニック腎友会 | 244 | 254 | 17,820 |
| 22 | 三和会 | 50 | 50 | 3,000 | 60 | 東高円寺クリニック腎友会 | 964 | 984 | 64,400 |
| 23 | 三軒茶屋病院腎友会 | 937 | 927 | 38,880 | 61 | 氷川下セツルズト病院 | 署名用紙未配布 | 240 | 13,620 |
| 24 | 聖母内科むまひの会 | 329 | 329 | 36,000 | 62 | 豊生会 | 217 | 217 | 58,370 |
| 25 | 昭和大学病院むまひの会 | 44 | 43 | 8,300 | 63 | 豊生会 | 584 | 584 | 58,370 |
| 26 | 松和患者会西新宿支部 | 1,060 | 1,075 | 49,573 | 64 | 望屋田豊クリニック懇和会 | 177 | 179 | 5,400 |
| 27 | 松和患者会四日背支部 | 110 | 114 | 11,800 | 65 | 南多摩病院のぼら会 | 30 | 30 | 6,000 |
| 28 | 松和患者会目白支部 | 147 | 141 | 10,560 | 66 | 南多摩病院のぼら会 | 544 | 556 | 29,810 |
| 29 | 白鳥腎友会 | 0 | 0 | 0 | 67 | 三の輪腎友会 | 46 | 53 | 6,000 |
| 30 | シオカ社会 | 420 | 0 | 38,640 | 68 | 森山病院友の会 | 327 | 329 | 15,000 |
| 31 | 新・新裕クリニック腎友会 | 69 | 70 | 8,800 | 69 | 大和病院透析友の会 | 780 | 803 | 48,000 |
| 32 | 新小岩クリニック腎友の会 | 495 | 515 | 73,500 | 70 | 谷中三和クリニック腎友会 | 0 | 0 | 0 |
| 33 | 新松山病院 | 69 | 69 | 4,800 | 71 | 代々木病院腎友会 | 1,342 | 1,349 | 61,187 |
| 34 | 慈寿病院看護会 | 647 | 662 | 39,900 | 72 | 南園クリニック腎友会 | 161 | 161 | 9,500 |
| 35 | 城南クリニック腎友会 | 155 | 154 | 16,800 | 73 | 患者会 | 30,650 | 27,979 | 1,977,920 |
| 36 | 精工友の会 | 1,683 | 1,672 | 75,300 | 74 | 個人会員 | 1,351 | 1,351 | 280,668 |
| 37 | 人工腎臓院の門・看護会 | 1,264 | 972 | 99,732 | 75 | 合計 | 31,943 | 29,350 | 2,258,568 |
| 38 | すみれ腎友会 | 160 | 160 | 8,400 | 76 | 合計 | 33,633 | 31,792 | 2,071,296 |

参考 昨年実績

論文発表要旨

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
昭和六十三年三月七日発行
SSKA増刊通巻1472号
（毎週月・水・金発行）

発行所
身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砦6-1-21
頒価百円